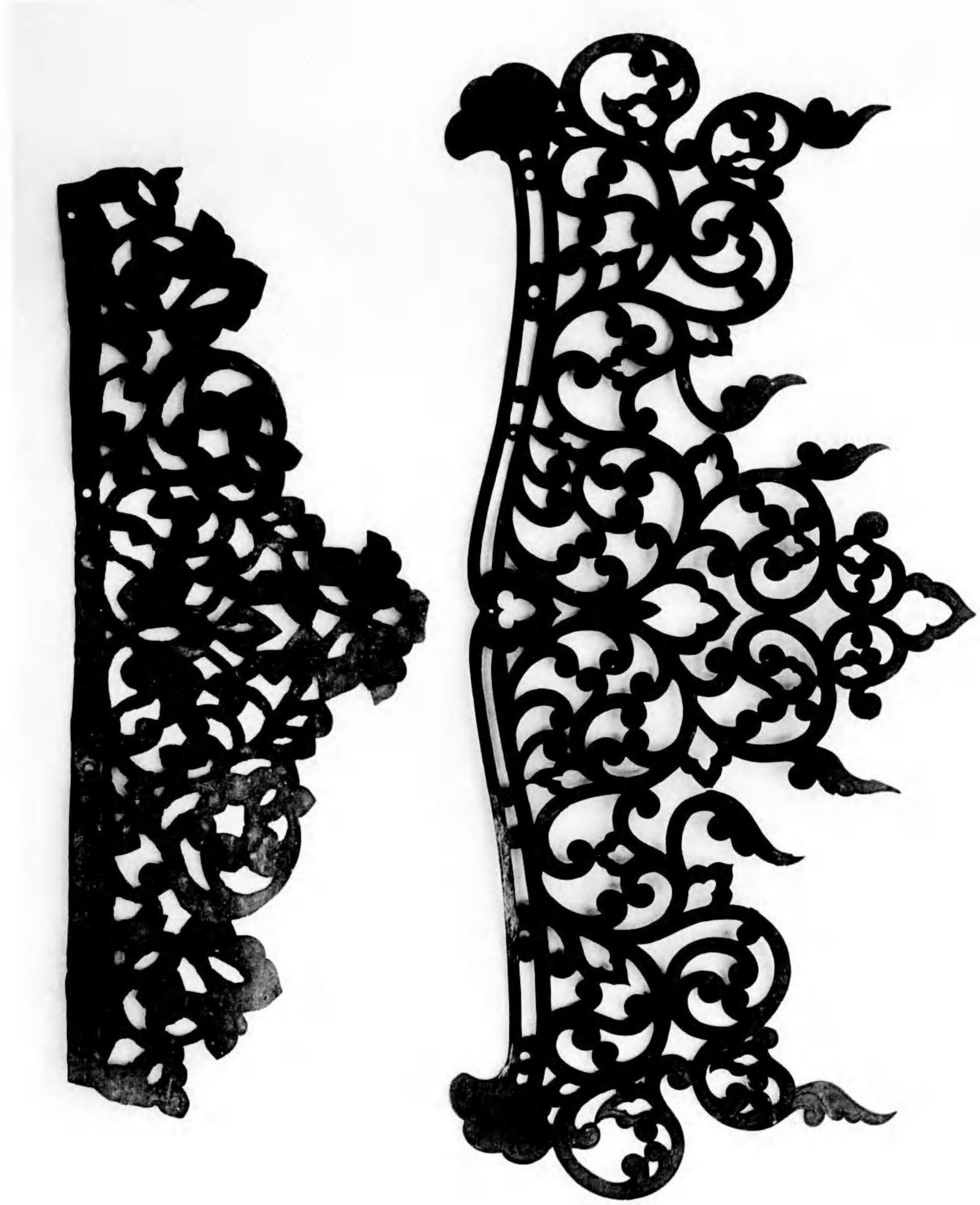


醉胡後面
相子
...

第四十九圖 金銅透彫冠

正 長径、 \bigcirc 幅 三・五 釐 厚、二 釐 重 三〇 瓦
 正 長径、 \bigcirc 幅 一・六 釐 厚、一 釐 重 三・五 瓦

共に三角形の銅板を透して均正唐草模様をあらわすが、上圖の精巧彫刻をに對し、下圖は稚拙調である。しかし唐草の性質は意草の股に花を覗かせる末端に子葉を伸ばすことにおいて共通し、又下方釘孔を穿つて用いられたことを示すもので、伎樂面中にてこれを表す時、あたかも上と異公面の頭部廻りに釘孔の存する事は、それがかもと異公面に附屬したものでないかと思われ、因に異公面に透を穿する事は西大寺資財帳にも見られる。



1890
The following is a list of the names of the persons who have been elected to the office of the Secretary of the Board of Education for the year 1890-1891. The names are given in the order in which they were elected.

Secretary of the Board of Education
for the year 1890-1891

John H. ...
...

布作面の使途については去た列然しない。正倉院古文書中唐中唐樂々具
と共にこの名をのせておれば唐中唐用のものかとも考えられるが、又散
樂に用いたとの説もある。
本面は方形の泥い麻布に目・鼻・口・耳・ひげ等を大體にかき、その
目の部分は布を切つて透し、耳上に紐を付したものであるが、今は左
の左紐のみ辛じて残る。眉の描法に最も特徴あり、又鼻・口邊の線描も
なかなか優れている。

第五十圖 布作面 (第一型) (複製 4)

図三六、種 柳三目、八輪

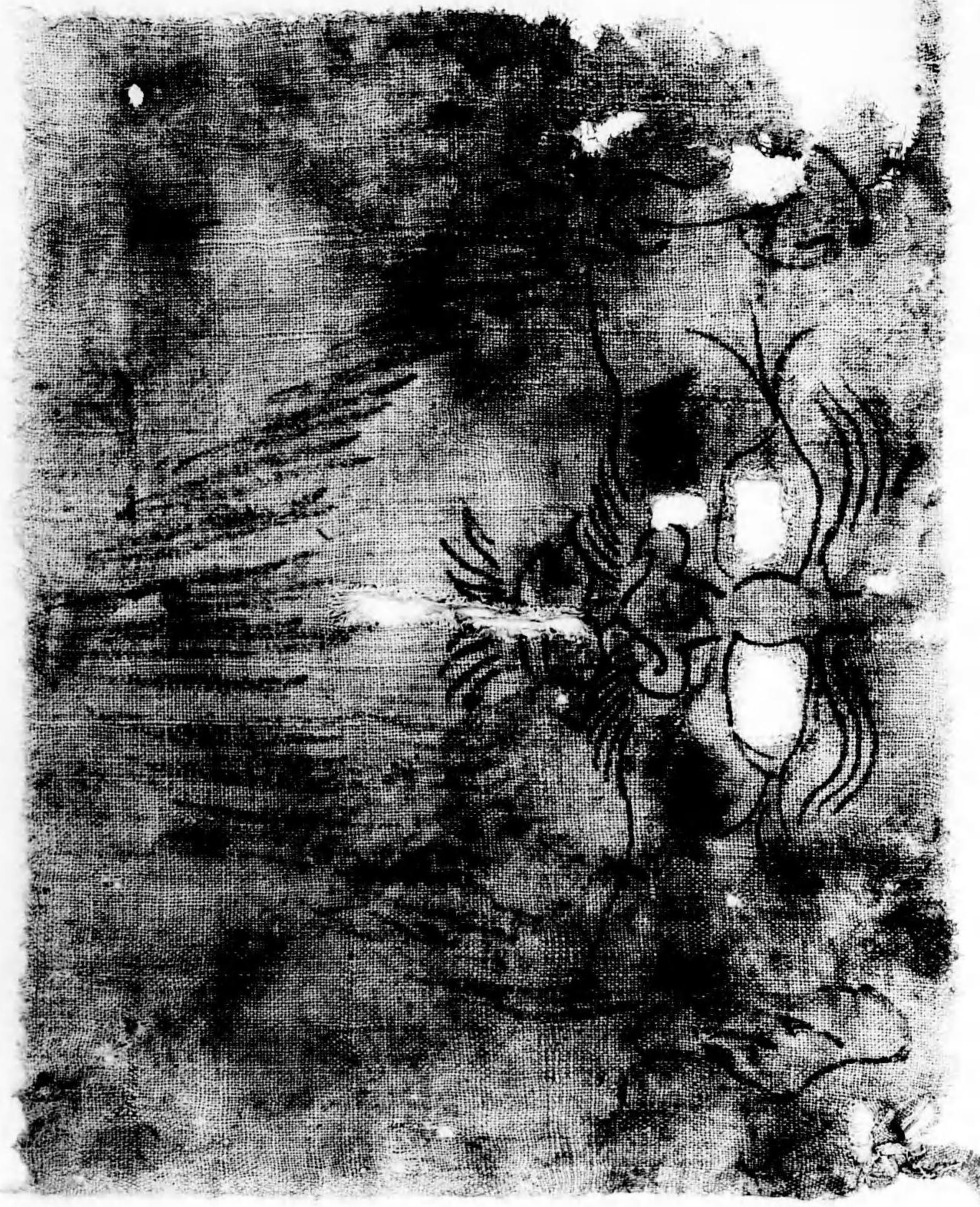


虎の顔のイラスト。高コントラストのハロルドドット印刷。虎の顔の中心部分には大きなドットが密集し、周囲に向かって徐々に小さなドットへと変化している。この効果により、虎の顔の立体感と毛並みの質感が表現されている。また、虎の顔の輪郭は、比較的均一なサイズのドットで描かれており、顔の中心部分との対比が強調されている。

肥瘦なき鐵線の如き描線で眉・目・鼻・口・ひげ等を力強く表わし、その大きく鼻張つた眼の中央を黒眼珠に布を切つて透し、口と兩頬には丹を練り以つて愁鬱の相を示す。但し、額中心部の線描の確かなるに反し、鼻と耳の表現は甚だ無難作である。結紐は其裂で左下にのみ残る。

略 二丈七寸 横 三丈八寸

第五十一圖 布作面（第二號）（圖 45）

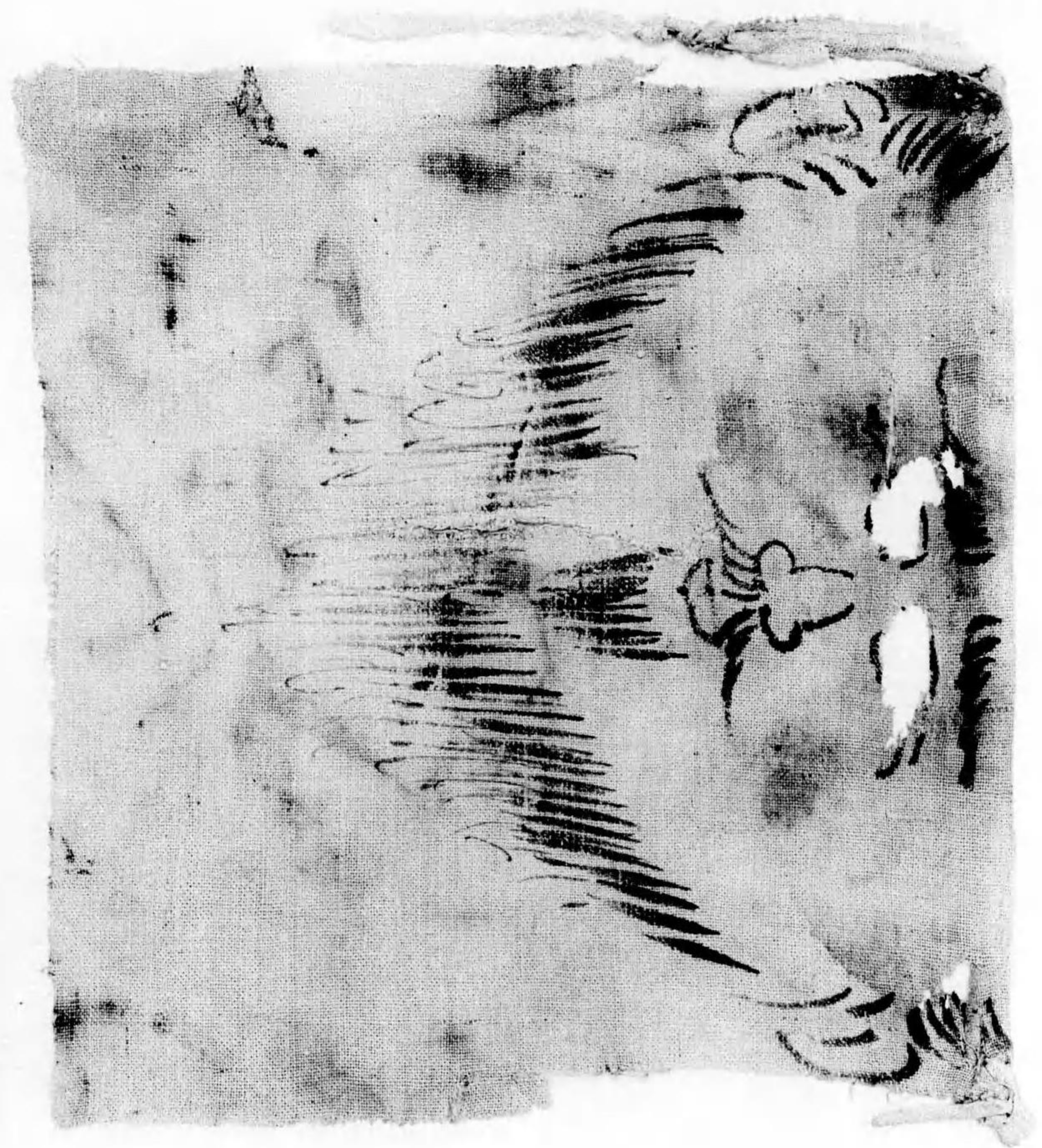


THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS
[Illegible text]
[Illegible text]
[Illegible text]

正方形に近い麻布の上半分に片寄せて、淺き的な顔を描き、眼は輪廓なりに切り抜き、兩頰には丹を塗り、耳邊に結紐をつける。額を上寄せて描くは、布作面を着ける場合、下方を眼楮中に入れる事を豫想したためである。又、縫附下の布裂の一部無けてゐるのは、其裂を短冊形に切つて紐に作られてゐる事を察せしめる。

原 三、三編 横 三三、八編

第五十二圖 布作面 (第三號) (原 三)



この布は、江戸時代中期に作られたもので、その特徴は、

濃い色の地に、黒い墨で描かれた、流線状の模様と、

白く染められた、幾何学的な形状の模様とが、

対照的に配置されている点にある。これは、当時の

染織技術の進歩を示していると考えられる。

表五十二圖 糸物問 第三巻 一 一

第五十三圖 布作面 (第五號)

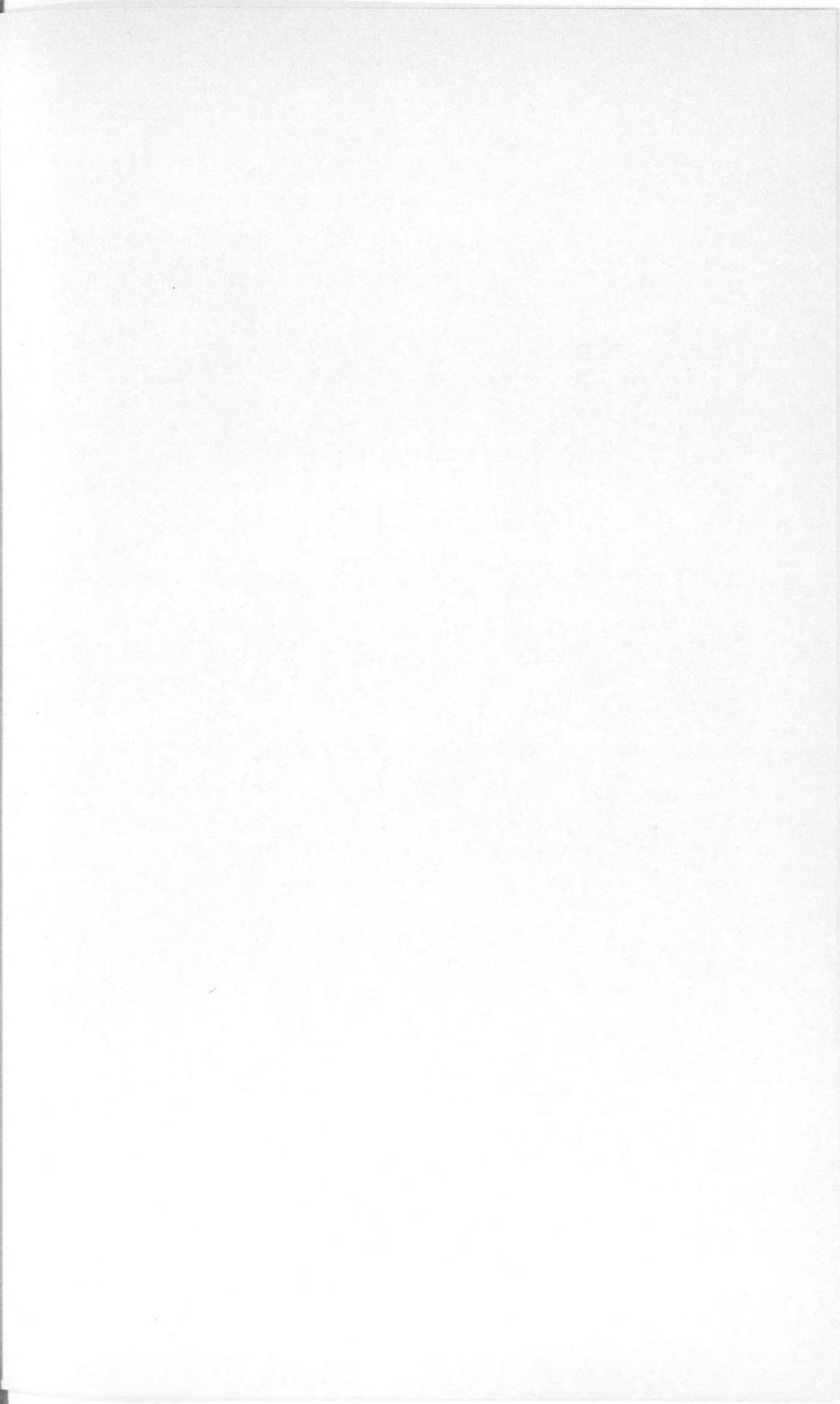
(縮寫 35)

堅 四六・〇種 横 三五・〇種

布作面中唯一の女性をあらわしたものである。細地の麻布の上半分に女の顔を描き、眉目は墨、口は朱で塗りつぶして墨界を加え、髪は漫然墨を塗り耳の輪廓のみ白く残す。思うにこの面は前三者の布作面と異り、上部で頭をつつみ下部を襟の中に入れて着用する事を最初から豫想して、かく堅長に作られたもの様である。なお下端に墨書して「美知王」「薩麻豊織」とあるも、それが何を意味するか不明である。



Figure 1. Skull of a young individual, showing the facial skeleton and the upper part of the cranium. The skull is shown in a frontal view, resting on a dark, textured surface. The eye sockets, nasal cavity, and upper jaw area are clearly visible.



第五十四圖 布作面 (第四號)

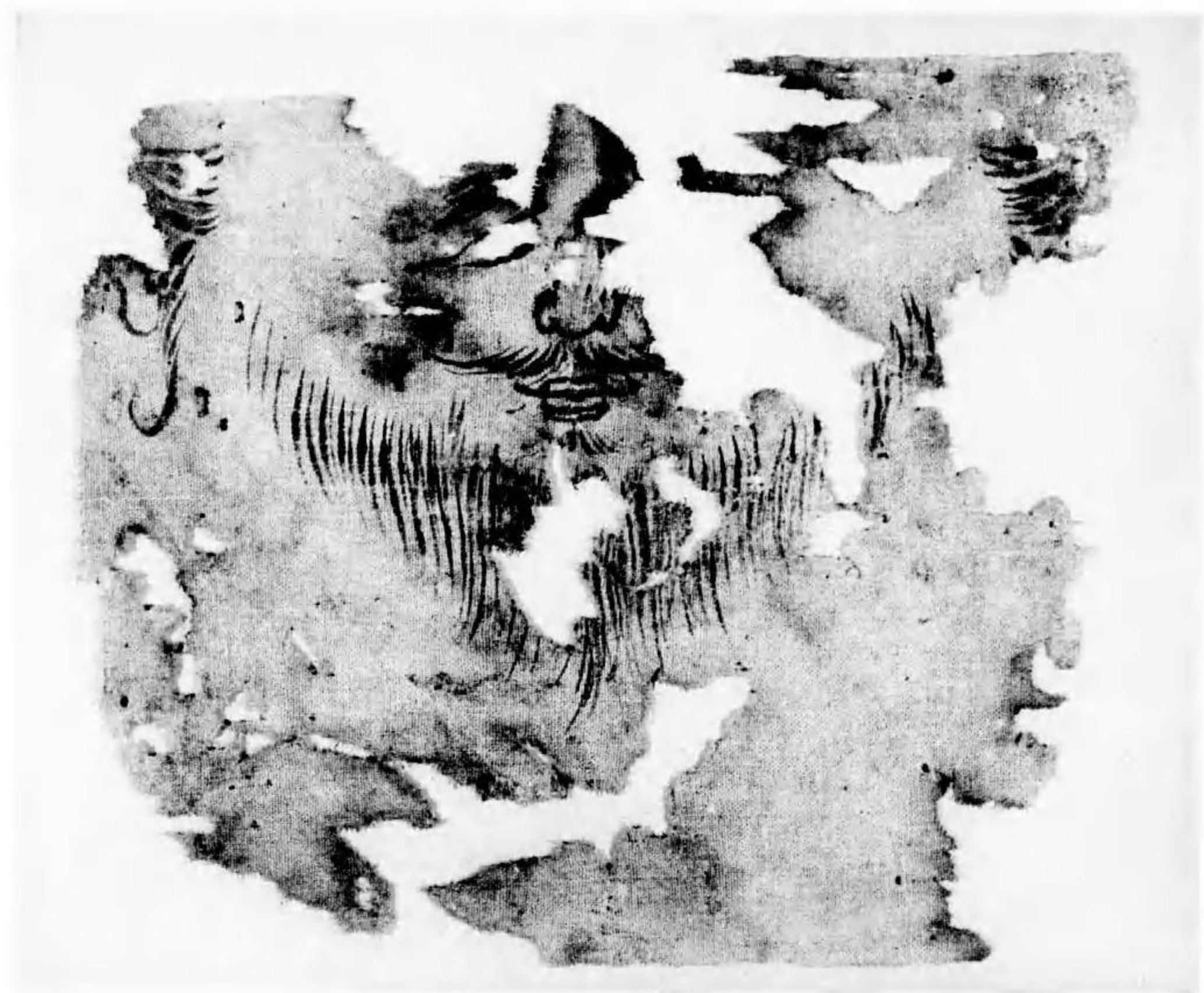
縦 三五・〇 横 四〇・〇 (縮寫 2/5)

朽損は多いが、なお全形をほぼ想像する事が出来る。顔はまた布の上半分に描かれ、眼尻が下り、鼻が小さく、口髭が上に巻いて異國的な風貌をしている。頤鬚・頬髯を淡墨と濃墨とで書きわけているのは布作面では珍しい。頬に丹を施す。

布作面 (第六號)

縦 三四・〇 横 四〇・〇 (縮寫 2/5)

目を文字通りの三角形に切り抜き、眉を濃く太く書いている事に特徴があり、神經質で意地の悪そうな人物が想像される面である。また頬に丹を塗り左上三分の一を失う。



玻第五八號



Vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is faint and difficult to read.

第五十五圖 布作面 (第七號)

豎 三七・〇釐 横 三五・〇釐

(縮寫 25)

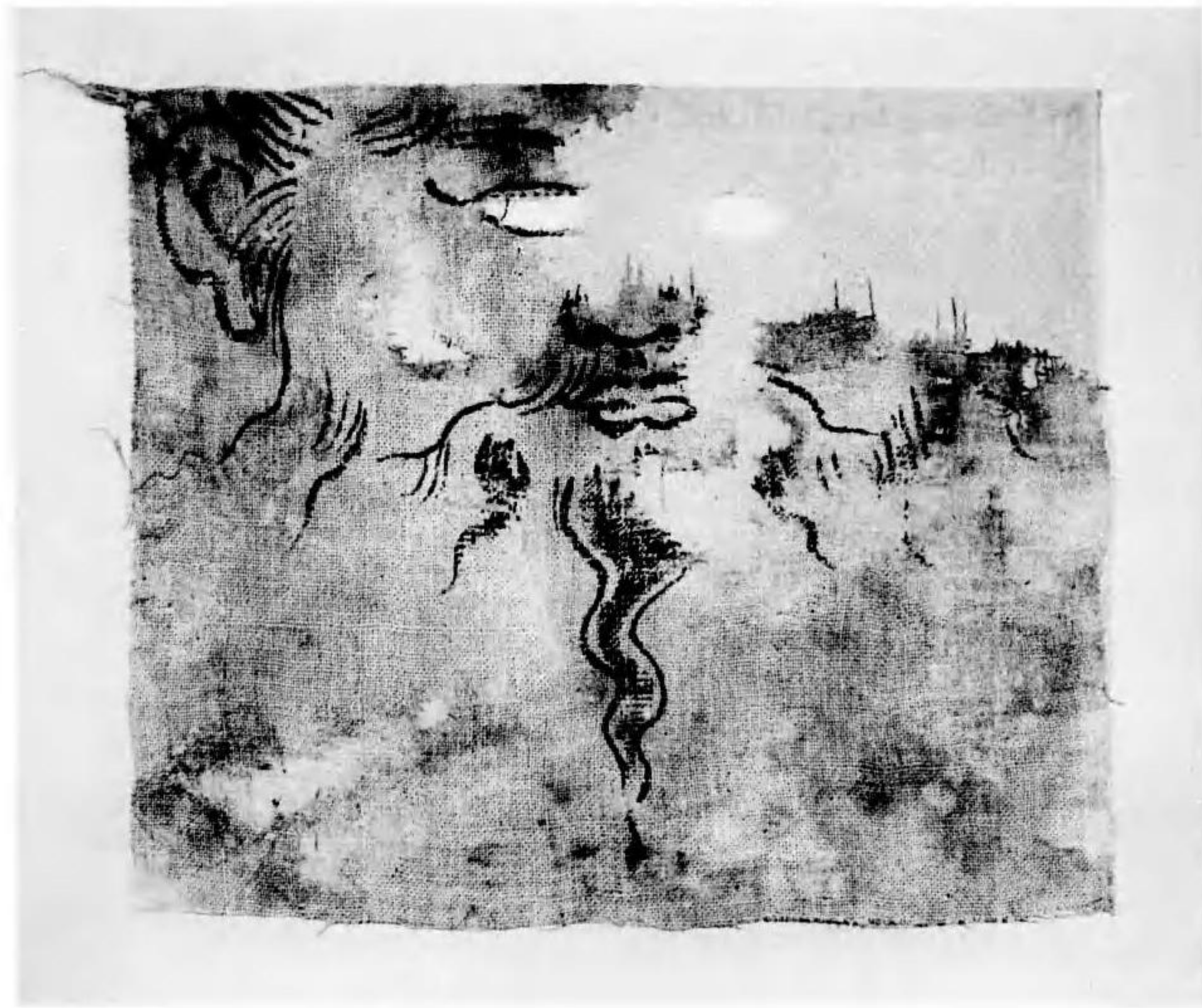
眉目は揚り、鼻は大きく、ひげは多く、且つ頬を赤くした堂々たる偉丈夫の相をしている。鼻の形は伎樂面の鼻に似て最も力強い。

布作面 (第八號)

豎 三〇・〇釐 横 三四・〇釐

(縮寫 25)

左上を缺く。温厚の君子を思わせるような貌で、その線描もしつかりしている。専門畫師の作るであろうが、頬には紅を點じ、右上の紐僅に残る。



Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

第五十六圖 布作面 (第九號)

(縮寫 1/3)

堅 三三・〇 横 五九・〇

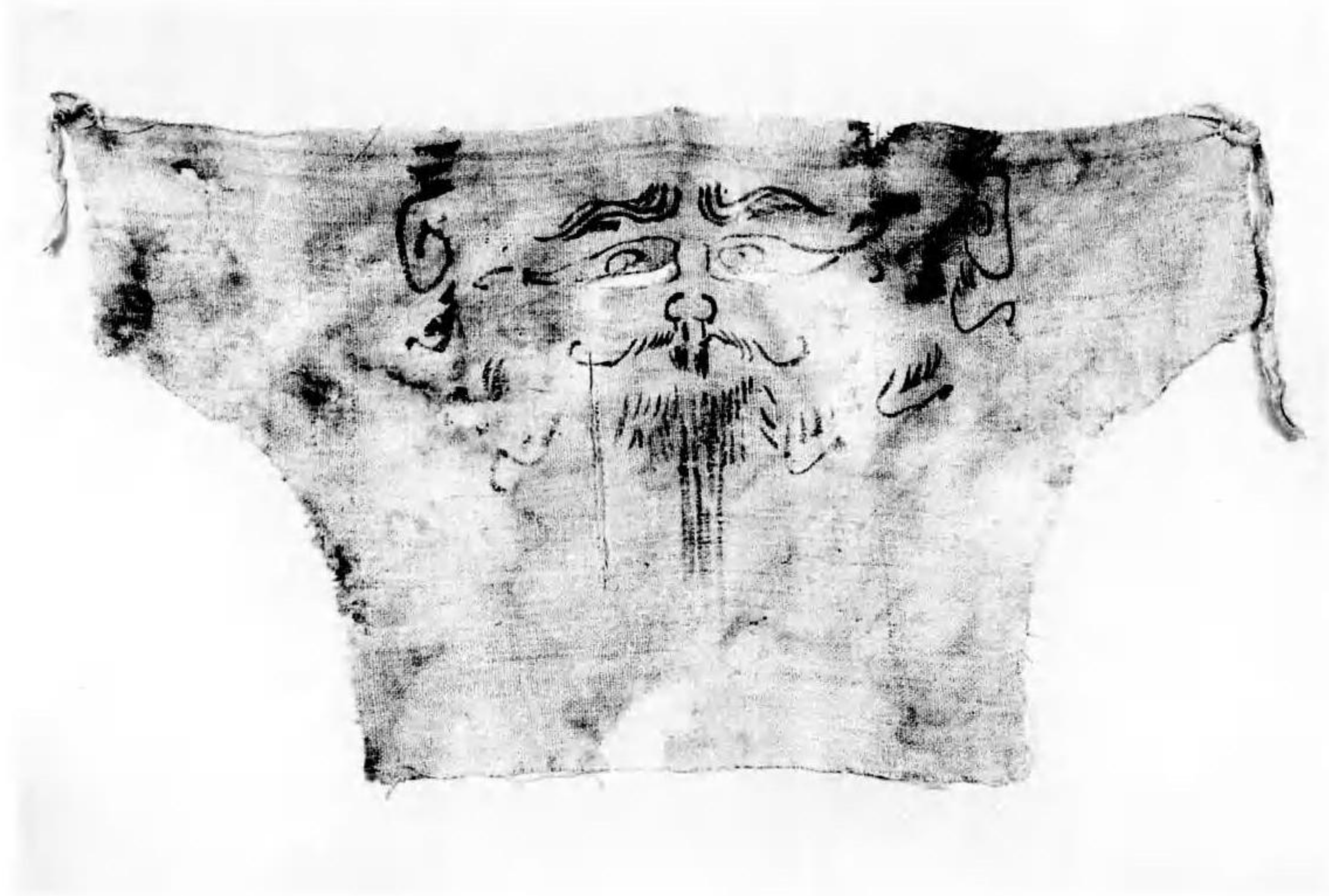
その形奴風の如く、布作面としては全く特殊の存在である。顔の表情は中老を思わせるも、「八」の字形の太い眉、目尻の下つた大きい目、それに小さい鼻に小さい口の配在は、全く滑稽そのものである。頬と耳には丹を塗り、目は輪廓なりに透さずして下臉のみを切つている。なおこの面の右隨に縫の切傷があるが、何のためのものか不明である。

布作面 (第十號)

(縮寫 2/5)

堅 三六・〇 横 三七・〇

また下臉を切り透した、さがり目の面であるが、鼻と口髭の表現に特徴がある。頬と口と耳を赤く塗り、口と右頬とに縫の切傷がある。なおこの面は結紐を上中二段につけたものようである。



Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

第五十七圖

布作面 (第十一號)

(縮寫 2.5)

縦 三〇・〇㎝ 横 三六・〇㎝

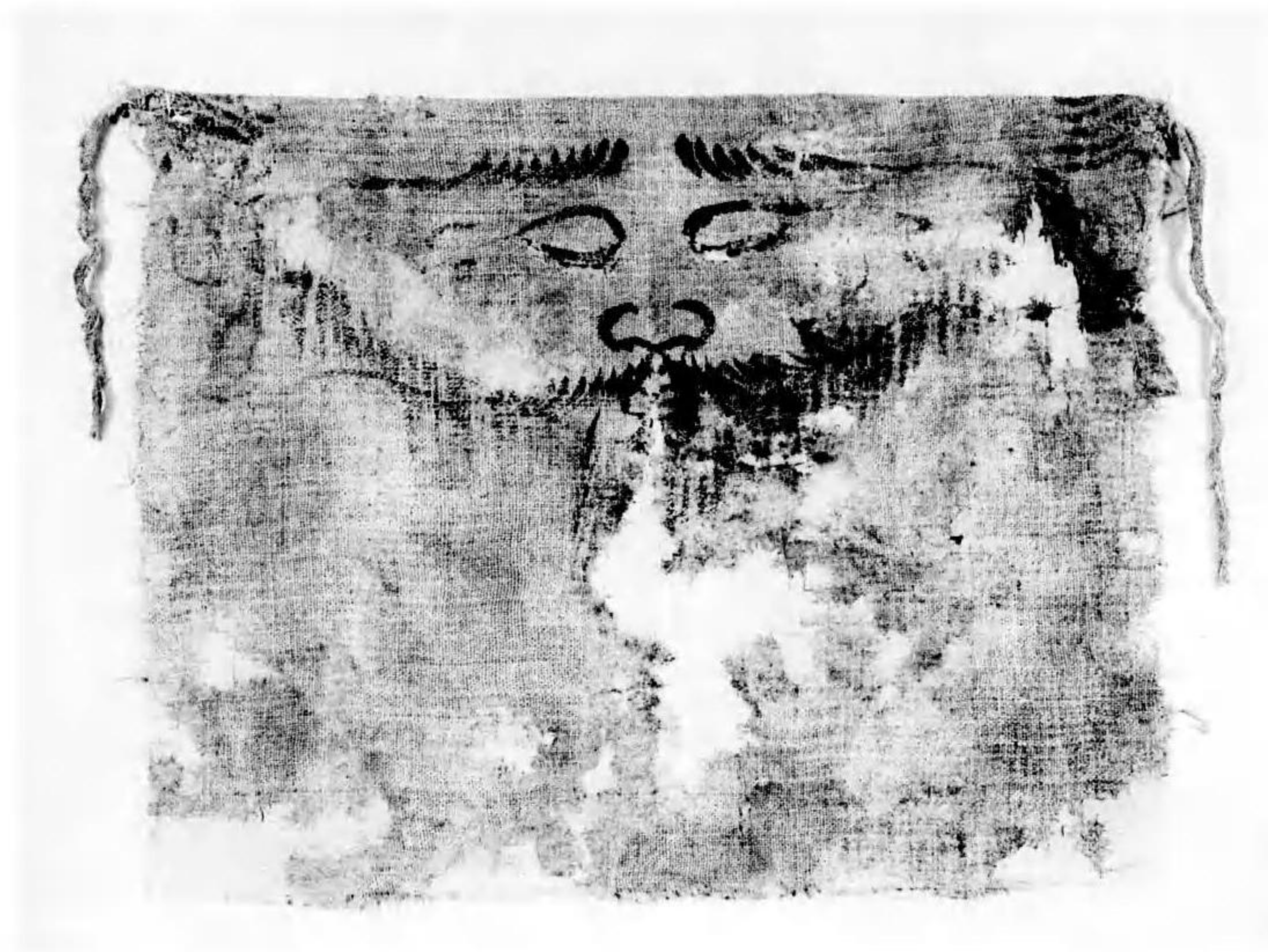
偉丈夫の相をなし、線描は粗雑だが慣れた筆致を見せ、布作面第七號と同一作者ではないかと思われる。頬と口は赤く染め、眼は瞳孔だけを透かす。この面珍らしくも兩紐を共に存している。

布作面 (第十二號)

(縮寫 2.5)

縦 三〇・〇㎝ 横 三七・〇㎝

その慣れた線描は専門畫師の手になつたものと思われる。目は下臉を切り透し、口・頬・耳・眉下等をそれぞれ赤く染る。また兩紐を存するも、鼻から口にかけて縦の切傷がある。



第五十八圖 布作面 (第十三號)

(縮寫 25)

堅 三四・〇辨 横 二六・〇辨

長方形の麻布の上半に描く。ひげの多い、目尻の下つた中年相をなし、頬は赤く染め、鬚髯は濃墨と淡墨とでかき分け、目は輪廓一杯に透す。その筆致が前掲五十六圖の布作面第十號に似るは同一の作者であろうか。鼻下と右頬と二ヶ所に縦の切傷がある。

布作面 (第十四號)

(縮寫 25)

堅 三三・〇辨 横 三七・〇辨

長方形の布を横にして用う。眉目の表情は布作面第七・第十一號の如く堂々たる偉丈夫をめざすようではあるが、筆力彼に及ばず素人畫に近い感じがする。目は輪廓なりに透し、頬と額を赤に染め、結紐は共裂で作る。又右頬に縦の切傷がある。



第五十九圖 布作面 (第十五號) (縮寫 25)

豎 三三・〇釐 横 三六・〇釐

眼尻の下つた八の字盤の面で、口と頬と耳はそれぞれ赤く染める。目は輪廓なりに透し、ひげは頬骨と頤鬚とを段にして描く。また鼻下と右頬に切傷がある。

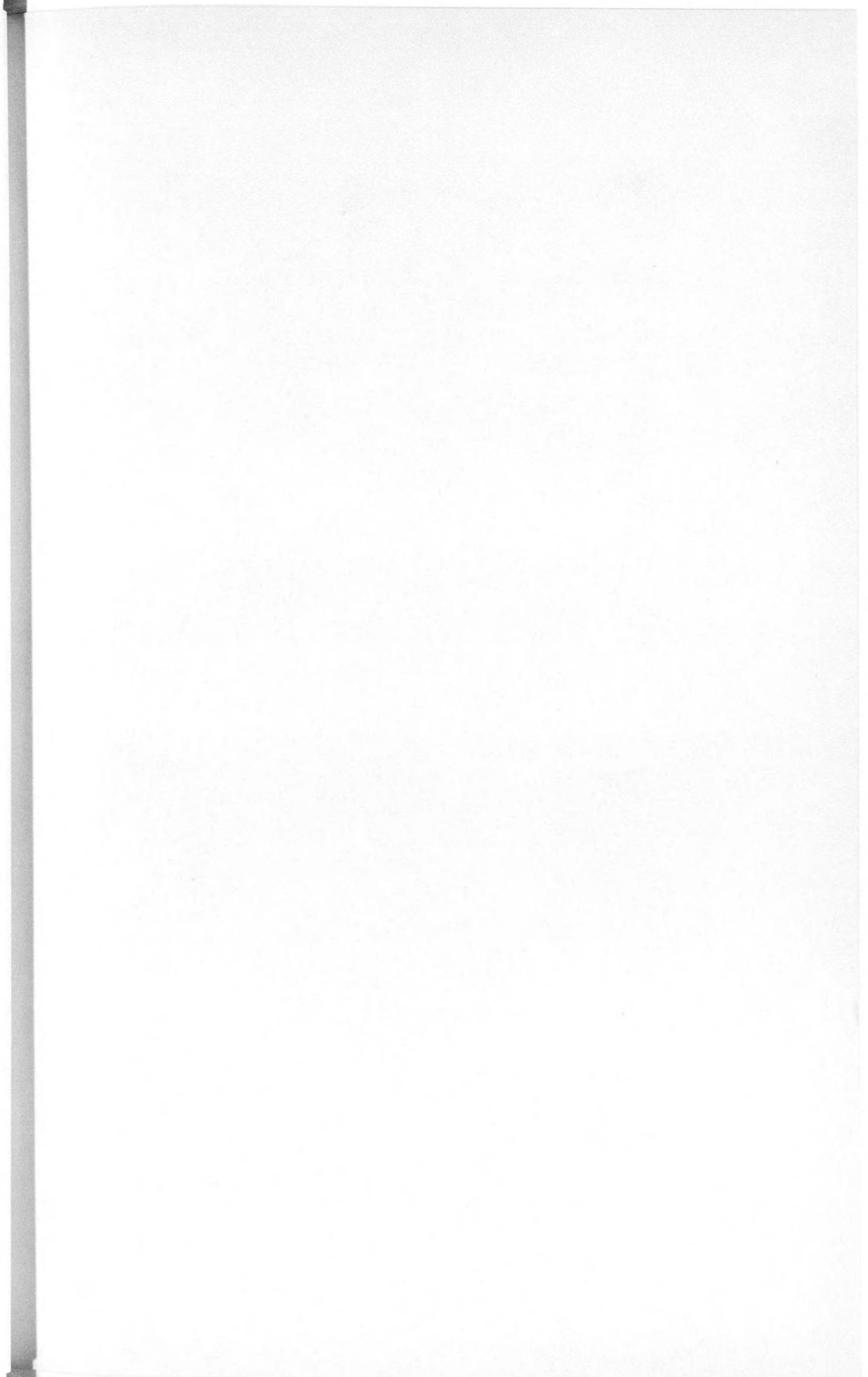
布作面 (第十六號) (縮寫 25)

豎 三四・〇釐 横 三八・〇釐

下方の兩鬚を撫丸形に切つている事と、結紐を二段に作つている事において、布作面中での珍物に屬する。線描もなかなか透者で、口髭の邊最も極れ、目は輪廓なりに透し、頬と口と耳を赤く染る。これにも鼻下に一本の縦切傷がある。



[Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]



第六十圖 布作面 (第十七號)

(縮寫 2/5)

堅 三四・〇釐 横 三七・〇釐

相當の破損はあるが眉鼻口耳ひげ等の描法の前掲十六號面に類似するは、以つて兩者が同人の作たるを思わせる。目は三角形に透し、耳をのみ赤く染めてゐる。また結紐を二段に作る。

布作面 (第十八號)

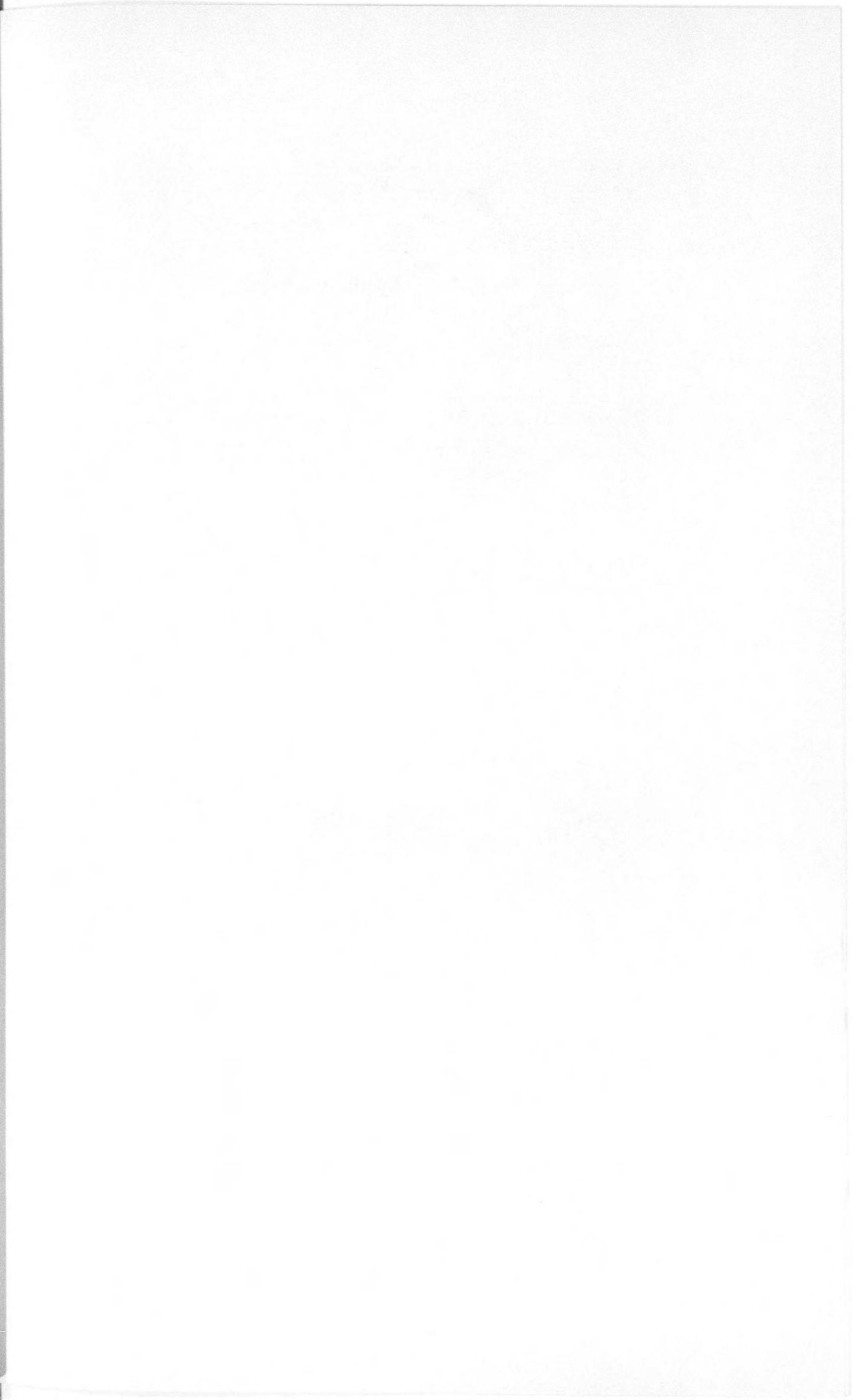
(縮寫 2/5)

堅 二九・〇釐 横 三五・〇釐

鼻の描法が特異であり、又頬髯を卷毛に作るも珍らしい。口は赤に塗り、目は輪廓なりに透かす。右の結紐残存す。



Fragment of papyrus
with a face
Fragment of papyrus
with a face
Fragment of papyrus
with a face



第六十一圖 布作面 (第十九號) (縮寫 2/5)

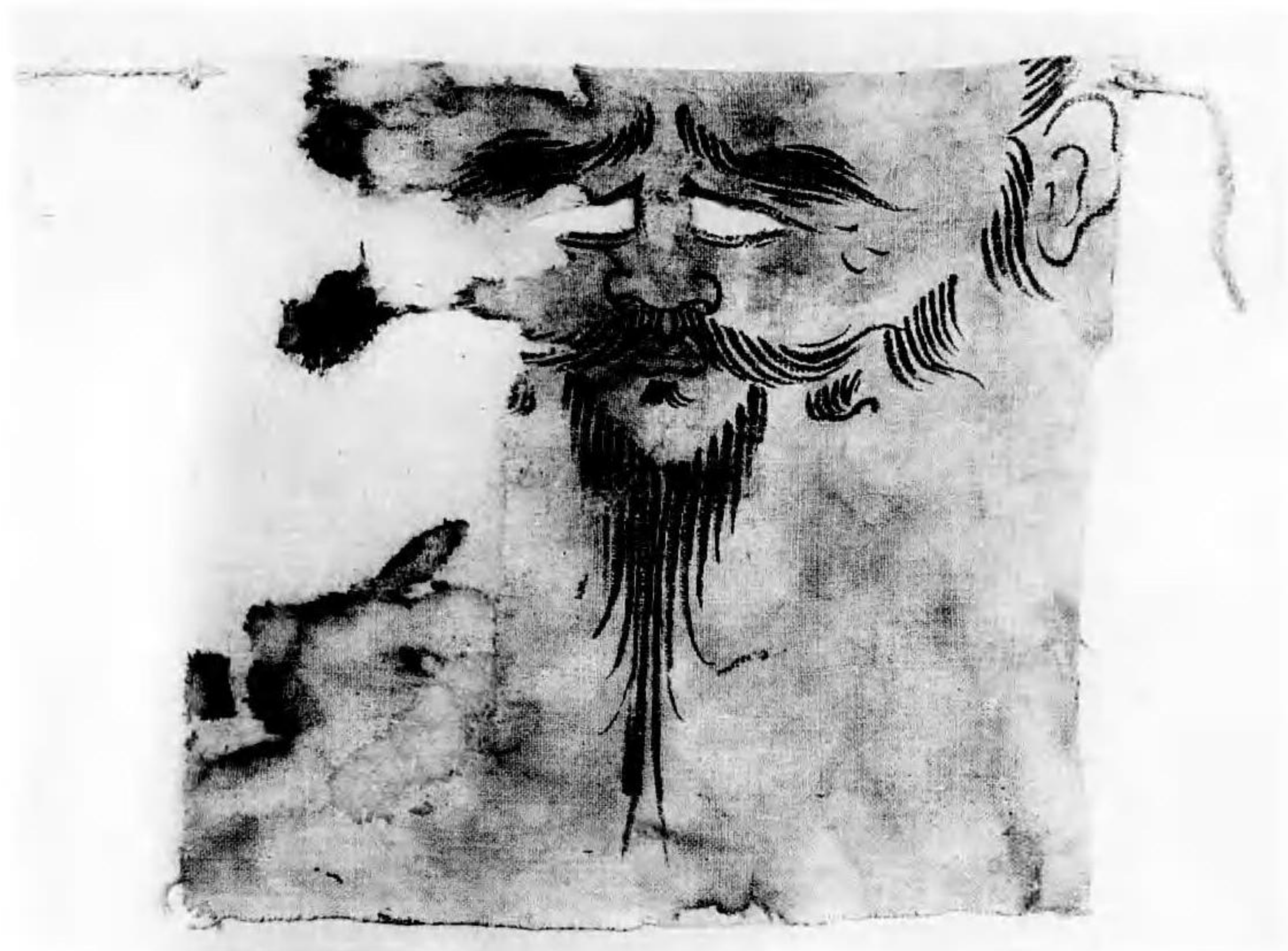
竪 三四・〇釐 横 三四・〇釐

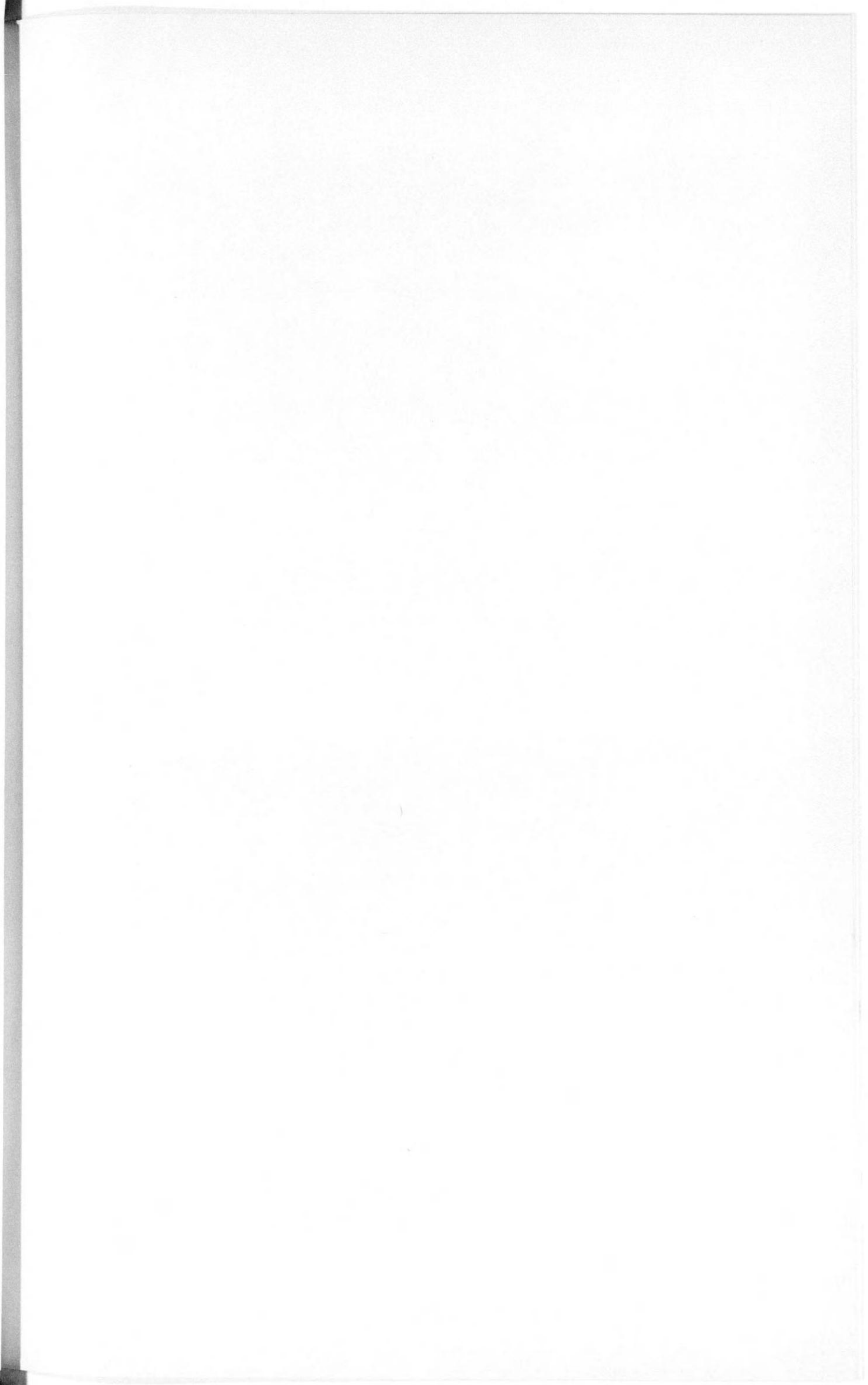
眉・鼻口・身・ひげの描法より、十六十七號面と同人作と思われる。目を三角に透し、頬口・耳を赤に塗り、紐を二段に作る。頤と左頬に切傷がある。

布作面 (第二十號) (縮寫 2/5)

竪 三五・〇釐 横 三三・〇釐

下方を撫丸形に作るは珍らしいが、目・眉・鼻口・ひげの描線は素人のようにも思われる。目は輪廓なりに透し、頬と口は赤くそめ、結紐は左だけ舊物を残す。頤にたての切傷がある。





第六十二圖 布作面 (第二十一號) (縮寫 25)

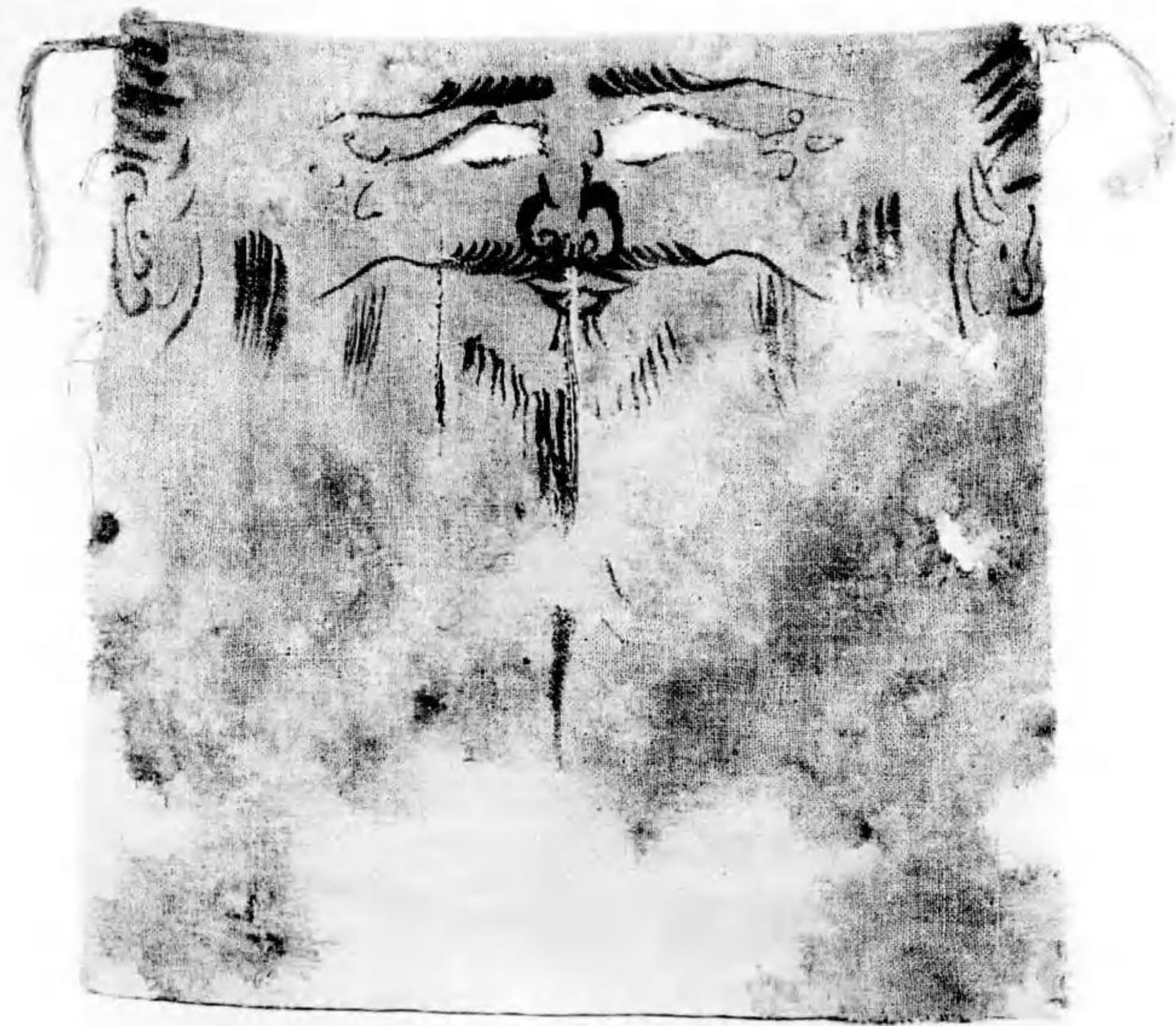
縦 現存二五・〇釐 横 三四・〇釐

下半分を缺くが、正方形か縦長方形のものであつたらう。やや淡墨で描くが、描線は潤達で五十六圖の布作面第十號と同一人作と思われる。耳肩の描法の類似は一層その感を深くする。目は輪廓なりに透し、頬は赤く染め、又口の下に縦切傷がある。

布作面 (第二十二號) (縮寫 25)

縦 三四・〇釐 横 三四・〇釐

正方形の麻布の上半に描き、眉並口髭の描法には獨特の癖がある。目は輪廓なりに透し、頬は赤く染め、又口下と右頬には故意の縦切傷がある。



第六十三圖

布作面 (第二十三號)

(縮寫 25)

豎 三五・〇辨 横 三九・〇辨

顔面部の破損は多いが、布の堅横が完全であるだけでなく、結紐も二つ作ら残っている。この面にも口から頤にかけて縦に一本の切傷がある。

布作面 (第二十四號)

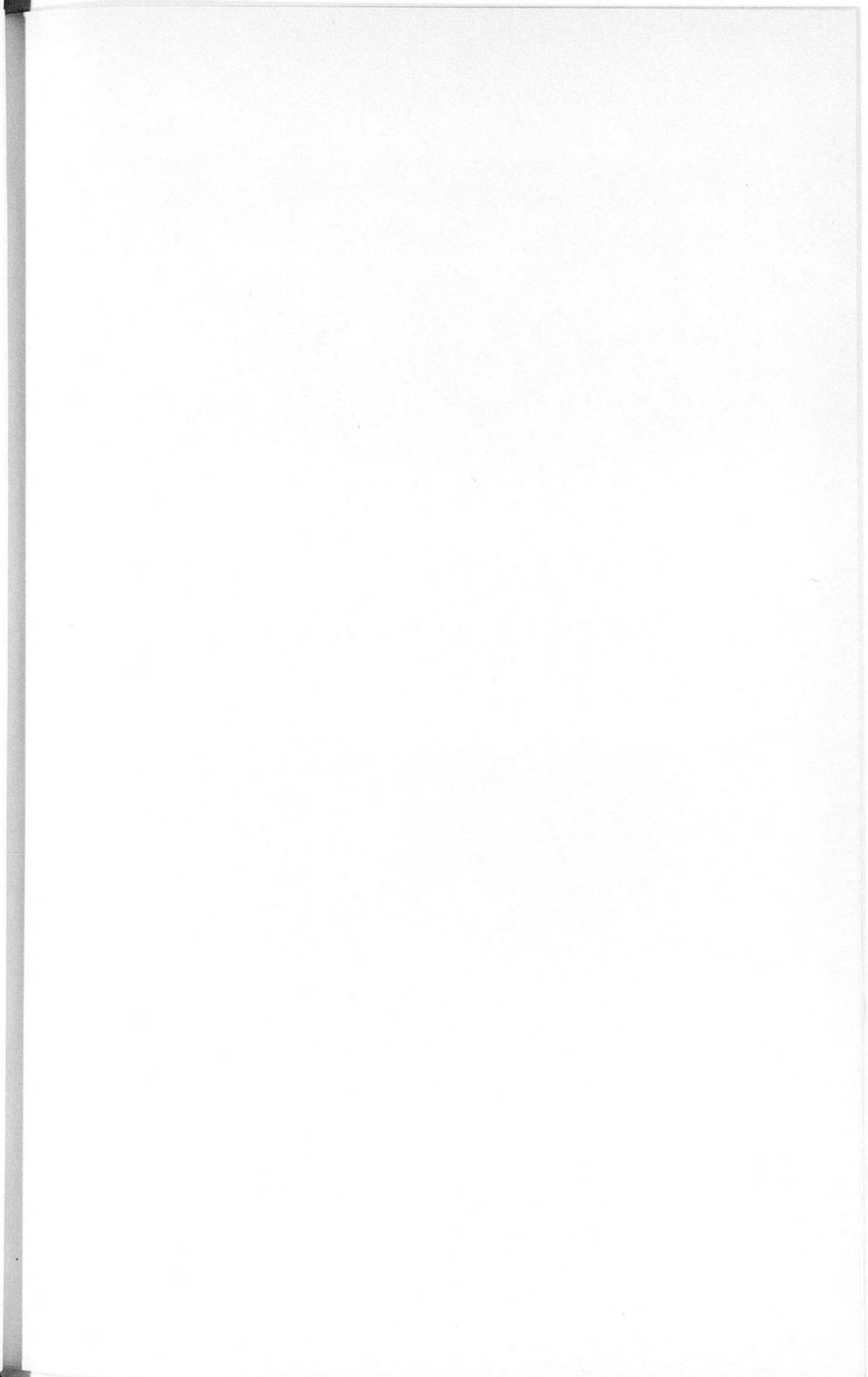
(縮寫 25)

豎 三五・〇辨 横 三五・五辨

二段につけた結紐のつけ方がはつきり判る。眉目・鼻・耳ひげ等の描法は五十八圖十四號面に似て、彼と同人の作と思われる。目は輪廓なりに透し、右頬に故意の切傷がある。



Faint, illegible text or markings, possibly bleed-through from the reverse side of the page.



第六十四圖 布作面(第二十五號) (縮寫 2/5)

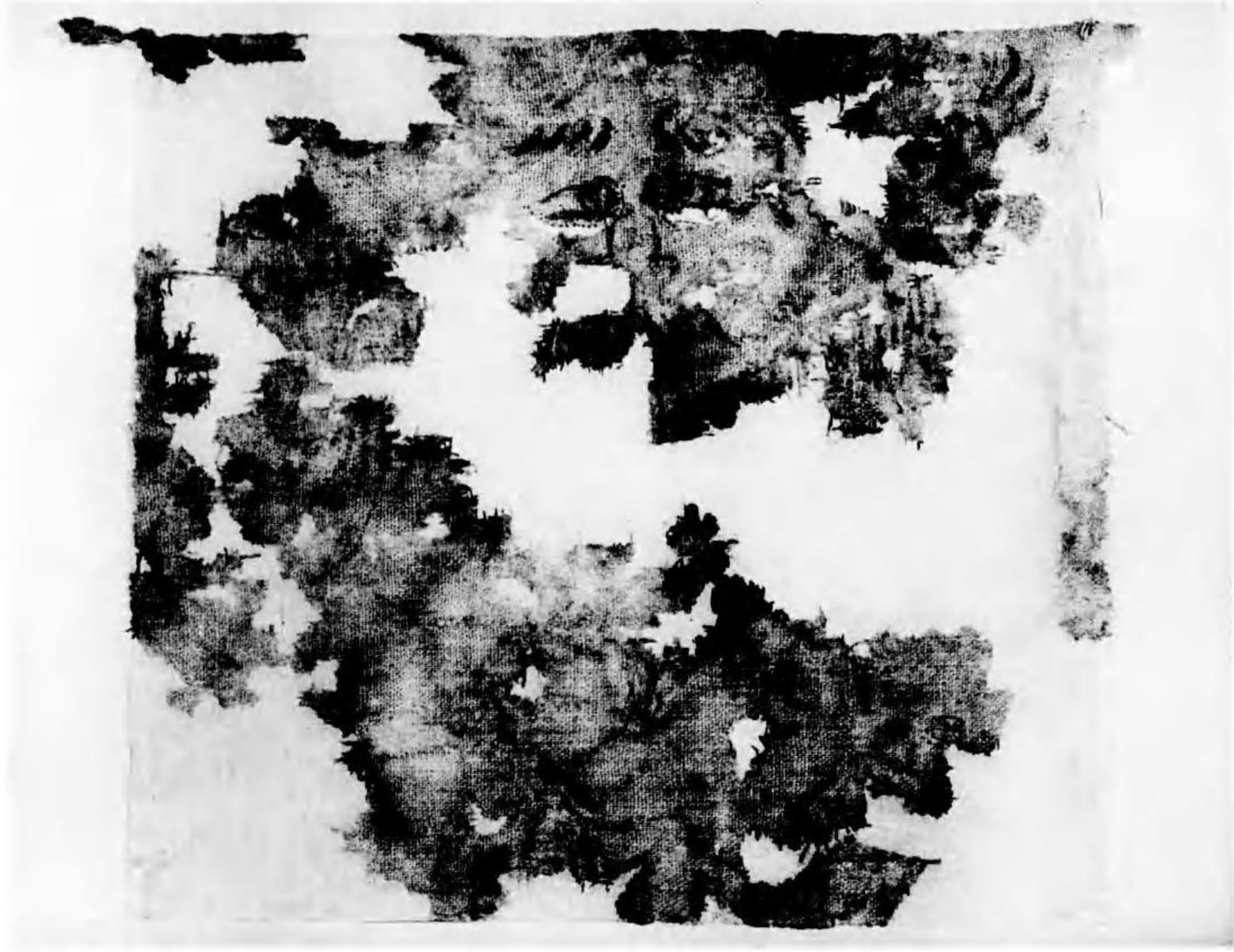
縦 三五・〇釐 横 三八・〇釐

破損甚しく襤褸をのばしてやつとこれまでになつたものである。眉目・鼻の描法たどたどしく、素人臭いところが多い。目は黒眼を描き下脛を切り透している。黒眼をかき下脛を透した布作面は前掲第九號面とこれだけである。

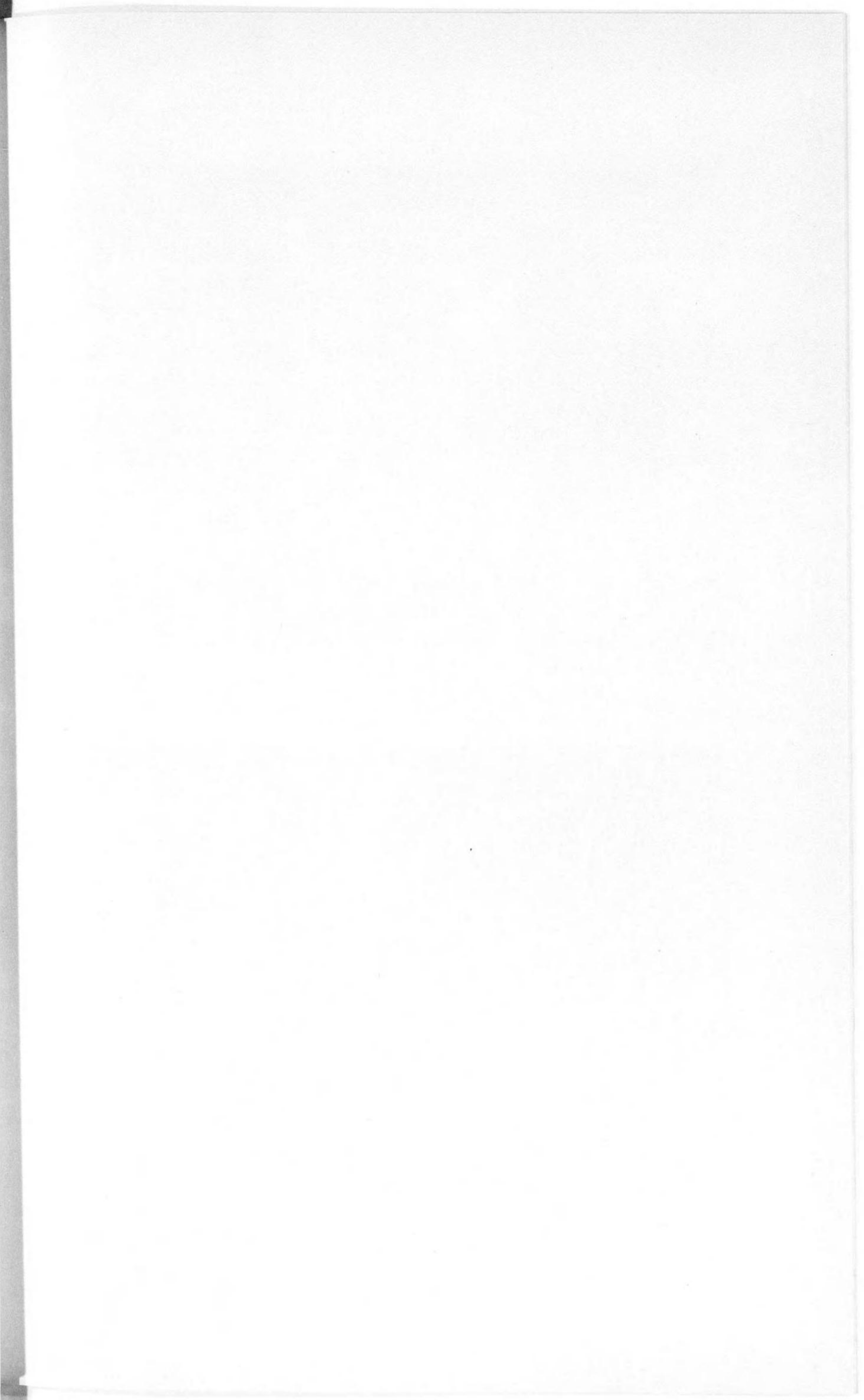
布作面(第二十六號) (縮寫 2/5)

縦 三五・五釐 横 三六・〇釐

これも破損が酷いが、目は輪廓なりに透したもののようであり、口と頬は赤く染る。眉目・ひげ身の描法は布作面第十號に似る。なお鼻下正面には故意に作つた縦の切傷がある。



1911
1912
1913
1914
1915
1916
1917
1918
1919
1920
1921
1922
1923
1924
1925
1926
1927
1928
1929
1930
1931
1932
1933
1934
1935
1936
1937
1938
1939
1940
1941
1942
1943
1944
1945
1946
1947
1948
1949
1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000



第六十五圖 布作面 (第二十七號) (縮寫 2.5)

縦 三〇・〇 横 三二・〇

鼻の描法に特徴があり、前掲の布作面第七號第十一號と同人の作と思われ。前二者に比して破損が多いが、なお頬と耳と口には赤を塗り、目は十一號面と同様黒眼の部分だけをすかしている。又鼻下に縦の切傷を見る。

布作面 (第二十八號) (縮寫 2.5)

縦 三二・〇 横 二九・〇

左半分を缺くが、その表現には従来に見ない手法が多い。目において下脛を切り透しただけでなく、瞳孔をも透している事は、これまでにない手法であり、又目の形や耳の恰好、口脛の描法等も普通とは變つてゐる。

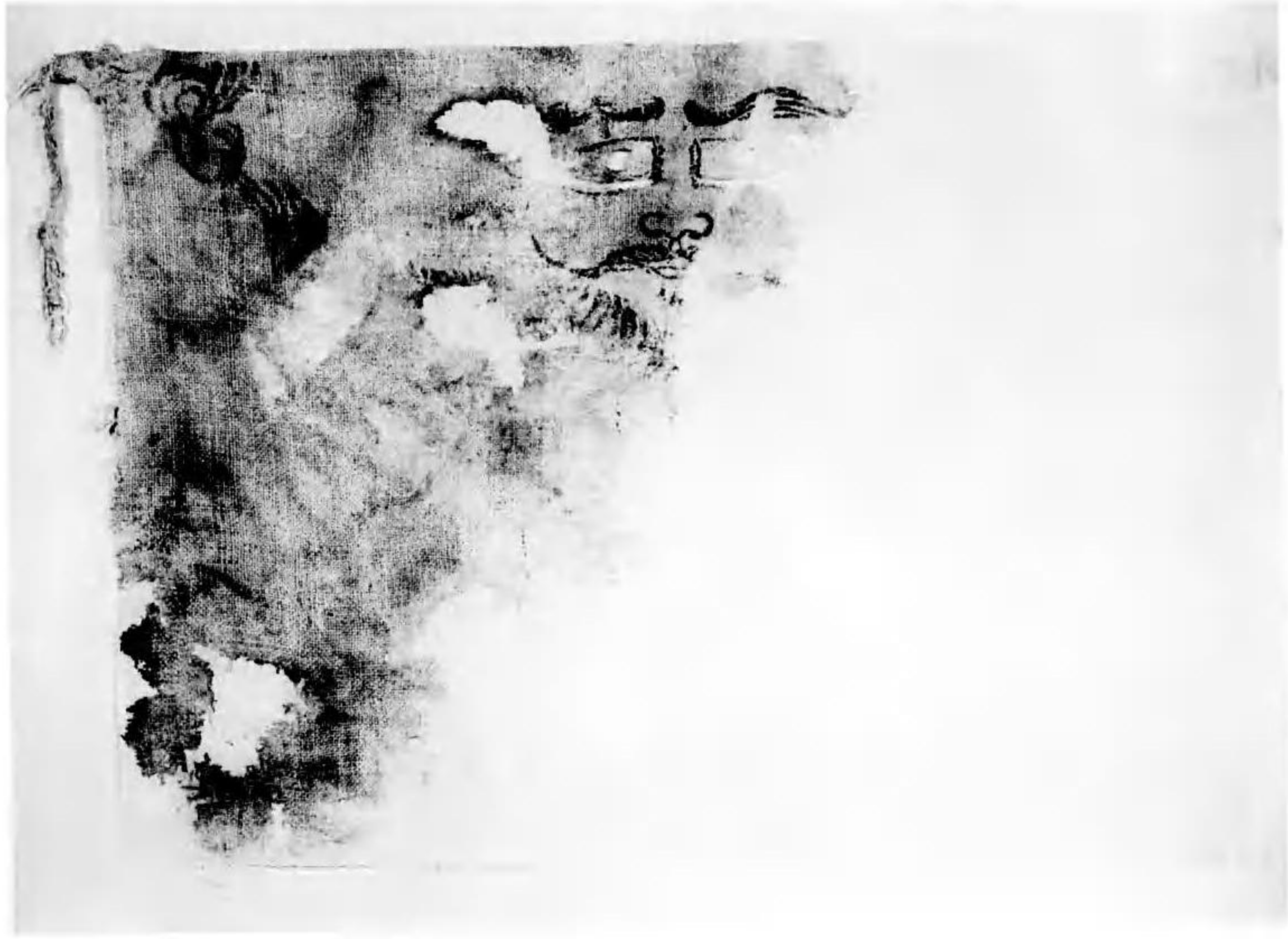


Figure 1

Figure 2

Figure 3

Figure 4

Figure 5

Figure 6

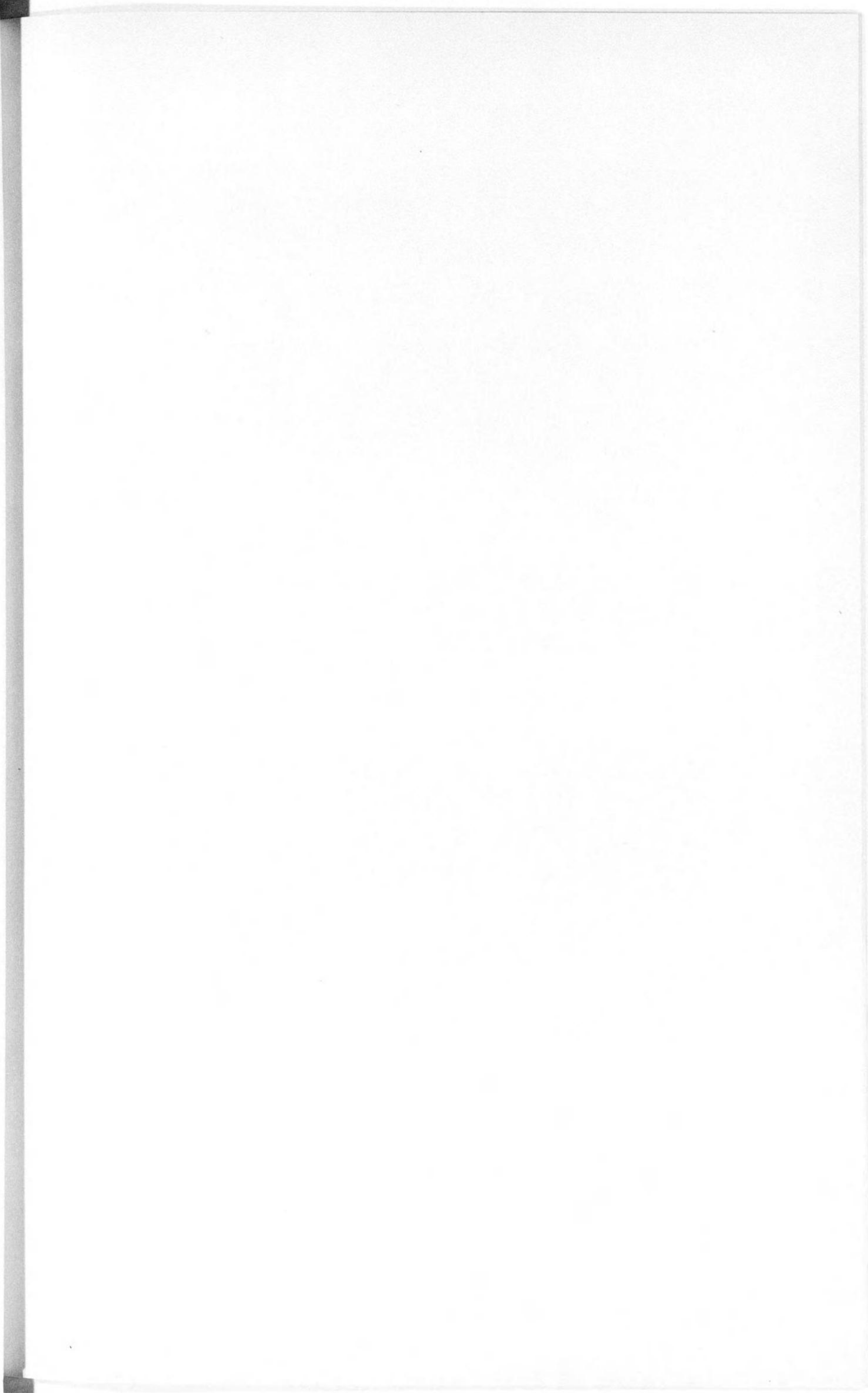
Figure 7

Figure 8

Figure 9

Figure 10

Figure 11



第六十六圖

布作面(第二十九號)

(縮寫 2/5)

竪 三四・五釐 横 四〇・〇釐

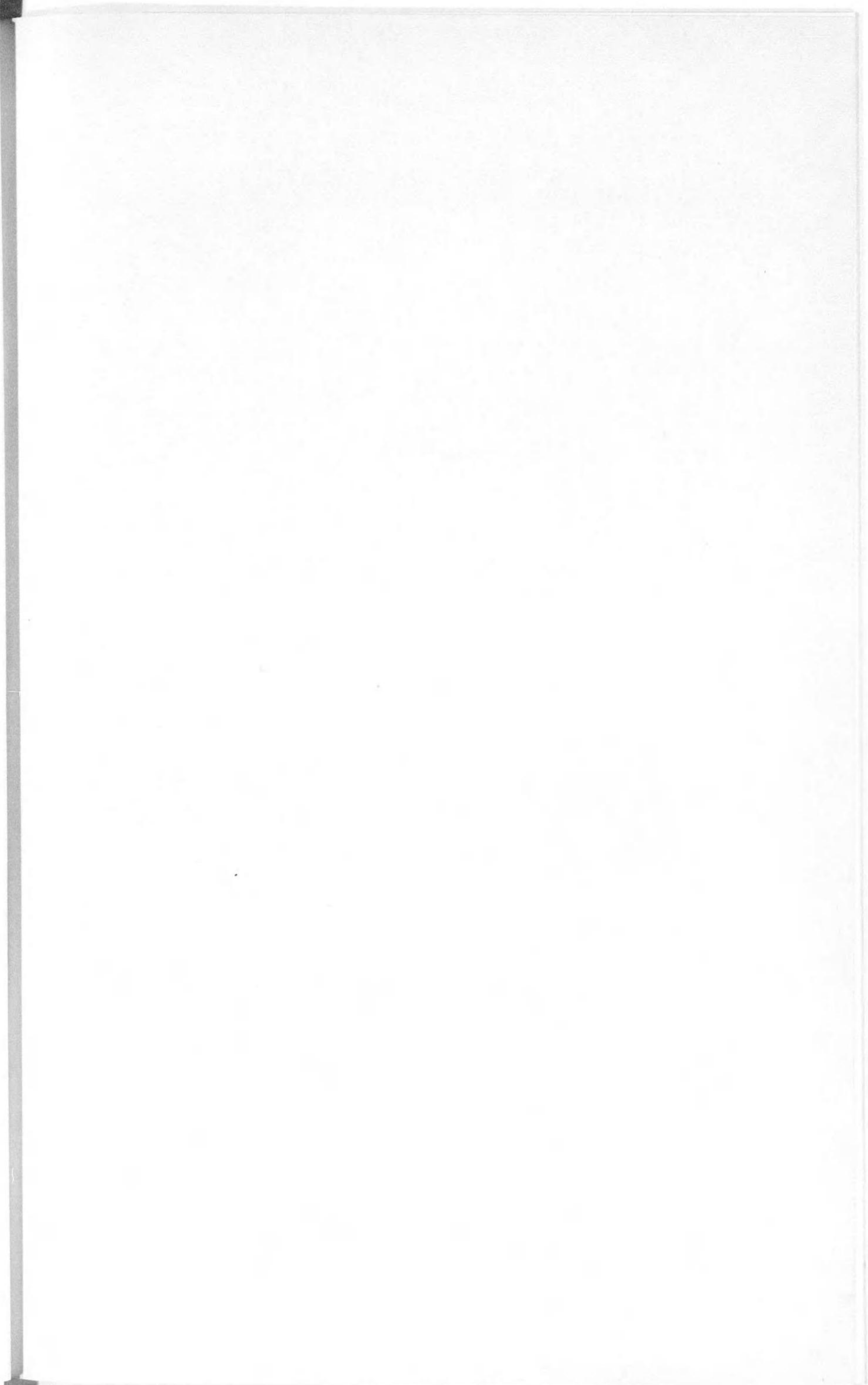
顔の大部を缺き、耳と頤鬚と口髭の一部のみ残す。耳の描法は十六號面にやゝ似るが、線描に力がない。なお、この面の結紐は二段式であつたら

布作面(第三十號)

(縮寫 2/5)

竪 現在 二〇・〇釐 横 現在 二〇・〇釐

右上の四分の一だけを残すが、眉、目、耳、頤鬚、口髭の一部を残し、従つてその全形もある程度想像される。その尻下りの眼と耳の描法は布作面第十三號(第五十八圖)に酷似し、また同人の作ではあるまいか。頤に赤色を塗り、結紐は二段式と思われる。



第六十七圖

布作面 (第三十一號)

(縮寫 25)

縦 現存 二九・〇釐 横 現存 一七・〇釐

右頬と眉の一部を残す。耳朶に貫孔をあらわしているのは布作面ではこれだけである。なお一方だけではあるが二段式結紮の制を完全に残している。

布作面 (第三十二號)

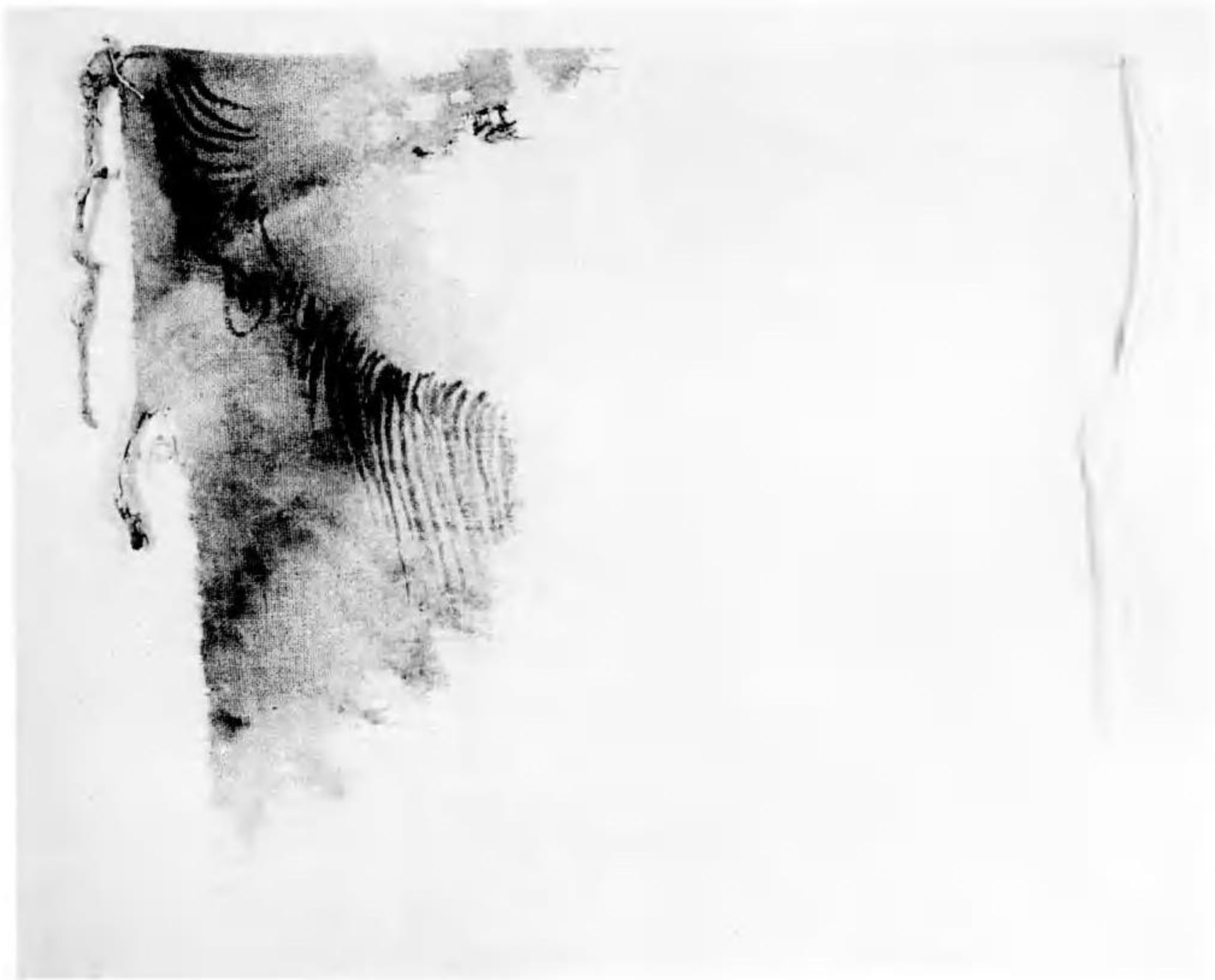
(縮寫 52)

縦 現存 二〇・〇釐 横 三・〇釐

口から下と左頬の全部を缺くが、線描は確かで且つ深みがあり、布作面第一號と同一作者ではあるまいかとさえ思われる。

× × × ×

以上三十二枚の布作面は製作的には数人の作者に類別され、列眼の技巧にもいろいろの別があるにも拘わらず、その表現の對象が、女性の一面以外、全部が男性である事は大いに考えさせられる問題である。伎樂面において異女面以外が全部男性面である事を思い合せて、性別的には布作面と伎樂面とは甚だ相似た條件にあるといわねばならぬ。しかしながら男性面について更に深く考察するとき、伎樂面には、少年あり壯者あり老人あるに拘わらず、布作面には老人も少年もなく、一律に壯年者を表わしているようである。この兩者の相異こそ、布作面は伎樂面の略形でなく、別の立場、別の使途にあつた事を察せしめるものといえよう。



Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

昭和三十年一月十六日印刷
昭和三十年一月二十五日發行

第八輯（定價五千円）

著作権所有

文化財保護委員會

編集 東京国立博物館

東京國立書院

文部省

昭和八年

五月二十日

文部省

文部省



終

II

II